

逆境に負けない 強く優しい心を



尚友会会長

岸本 大三郎

新型コロナの動静ですが『第八波』の感染者数は「一月八日頃にピーク（約十四万人／日）を迎えた後は減少し三月以降は「一万人以内で推移している」と報道されています。感染者の死亡率は「第一波」の五・三%に比べ「第八波」では〇・三%と激減したものの十二月以降の死者数は連日過去最多となり一・五か月の内に一万三千人の方が亡くなりました。

政府は感染症法上の位置づけを五月からインフルエンザと同じ「五類」に移行することを発表しましたが岸田首相は「移行後に変異株の出現などで状況が変わった場合には『二類相当』の措置を適用するなど直ちに対応を見直す」という考えを明らかにしています。

また最近の研究では「日本の集団免疫レベルは世界最高水準の七〇%に達していて、しばらくは流行が抑制されると期待されるが免疫の低下やウイルスの免疫逃避による再流行の可能性は否定できない」としています。政府も景気回復・経済再生に集中していますが、死者数が増えないよう如何にバランスをとるか苦悩しているようにも思えます。教職員の皆様、学生の皆様が逆境に屈することなく学習の成果を上げておられ心からエールを送りたいと思います。大学進学成績も例年通りの成果を見せて頂けることと大いに期待しています。卒業生の皆様もどうぞ自分を信じ、逆境に負けない強く優しい心を持ち続けて頂きたいと思います。

尚友会の評議員会は四月二十一日に開催致しました。ホームカミングデイは今年も中止せざるを得ないという結論となりました。全体忘年会も多数の皆様に安全に参加して頂ける見通しが立たず現時点では中止と致します。開催が許される環境となれば様々な対応策を検討して提案させて頂きたいと考えています。同窓会活動を縮小せざるを得ないことは誠に心苦しく思います。何卒ご理解を賜りまますようお願い致します。会員の皆様におかれましても体調に十分お気を付けてお過ごし頂くようお願い致します。

ご挨拶



金蘭千里学園 理事長・学園長

辻本 賢

今年の桜は三月末にはもう散り始め、入学式に間に合うかとか、間に合わせて欲しいとか、心を騒がせることもなく入学式を挙行。中学生二〇九人、高校生一六五人、合計三七四人とお父さん、お母さんの出席による久々の懐かしい金蘭千里の入学式でした。三月一日付で、高三生は一七一人が卒業して尚友会に入会いたしました。どうぞ宜しくお願ひします。

日頃は、卒業生の皆様には、理事会や評議員会を通じて経営面で、また講演や内科検診、歯科検診など教育活動に多大のご協力、ご支援を頂いています。有難うございます。

学校は、新型コロナウイルス（COVID-19）対策を講じながら、対面授業、学校行事を実施する方向で柔軟と正常化に向けて努力しています。五月八日が待ち遠しい限りです。

今なお、COVID-19によりなかなか皆さまとお会いして楽しい時間を過ごす機会がなくなり寂しい限りです。お子様の教育こそがわが学園の使命だと考えておりますので、理事長室のドアをいつも開けています。ご相談をお待ちしております。

連日、マスコミはウクライナ戦争を報じ、その動画は私に五才の日々を皆様に語らせます。

父の出征母と私の二人の生活。連夜、B29の不気味な爆音、灯火管制の下の空襲警報。「お母ちゃん、死んでもええやん」「難儀な子やな」と手を強く握り引きずつて命が保障されない防空壕に急ぐ。空襲が遙か彼方まで夜空を赤々と焦がす。今日生きていても明日の保障はない。今日食べ物があつても明日あるとは限らない。父は病を得て鹿児島に復員。面会の汽車に乗り込む前の大阪駅コンコースの混雑。手にした私のお結びがすっと消えた。大人が子供の食べ物を掠め取るなどの道德の荒廃。昭和二十年の終戦前後です。

これは、私にとっては過去のものではなく、皆さんのお父様、お母様、お爺様、お婆様とも共有できる、否、している事実です。

これは今まさに知るウクライナの日常です。それは私の追体験です。そして、それは平和を希求する私の平和論の原点です。

ご挨拶



金蘭千里中学校・高等学校 校長

大中 章

尚友会の皆様、日頃よりお力添えをいただき誠に有難うございます。本校は、創立以来の毎朝の二十分テストや、一クラス約三十人の少人数教育などの伝統を継承しつつ、創立五十周年改革を経て、学校のICT化、各種プレゼンテーション大会への参加など、新たなチャレンジを続けています。そして、本校での教育活動を通して、自ら考え、自ら判断し、自ら行動する、すなわち自律する力を身に付けさせたいと考えています。

昨年度はコロナ禍三年目。生徒は、様々な感染症対策の指導によく従つてくれたと感じています。学校行事は、可能な限り前向きに検討しました。キャンプ活動は、各学年二つのグループに分け、炊事なしで宿泊の一泊二日で実施、また、自然研修は中三の信州、高二の北海道共に、予定通り実施することができました。教員による管理の徹底に無理のある徒歩訓練は中止とするも、アメリカンサート、文化祭と体育祭、英語暗唱コンテスト、校外学習、合唱祭、外務省現役外交官による講演や米国総領事館講演など各種講演会などを実施。三年ぶりとなるイギリス海外研修は、イートン校へ高一の四十三名が参加、現地でコロナに感染したり、帰国前のPCR検査に引つかれたりしながらも、何とか四回に分けて全員無事に帰国することができました。

昨今、個別の学校見学者が増加しています。そして、学校説明会への参加者数の安定が中学入試の受験者数の安定に繋がっていることは有難いことだと思います。一方、長引くコロナの影響もあってか、ここ数年不登校の生徒が増加しつつあることはとても気がかりです。今後も、教科指導、生活指導、進路指導の全てにおいて目の前の生徒を大切にし、一人一人に寄り添っていくことが肝要であると考えています。